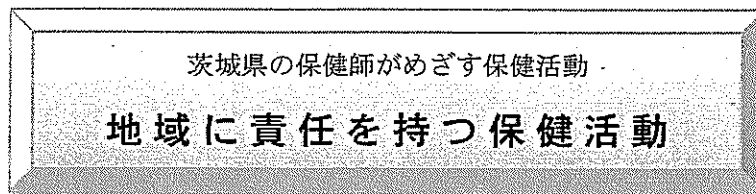


第2章 茨城県の保健師がめざす保健活動

保健師は、公衆衛生看護学^{*4}を基盤とし、ヘルスプロモーション^{*5}の理念に基づいて、住民及び地域を継続的かつ多面的に捉えるとともに、住民の生活と健康との関連を考察し、予防活動も含めた保健活動を展開することが求められる職種であり、住民の健康寿命の延伸やQOL (Quality of Life) の向上を図る上で、重要な役割を担っている。

本県の保健師の保健活動においては、「地域に責任を持つ保健活動」をめざすこととし、この活動を通じて、住民及び地域全体の健康の保持増進に努めることとする。

そのためには、全ての保健師が、この方向性を認識し、以下の保健師の保健活動の本質である「地域を『みる』『つなぐ』『動かす』」、「予防的介入の重視」、「地区活動に立脚した地域特性に応じた活動の展開」について、共通認識と自覚をもち活動することが重要である。



保健師の保健活動の本質

◎地域を「みる」「つなぐ」「動かす」

- ・保健師は、個人の健康問題の共通点や地域特性等から地域の健康課題や関連施策を総合的に捉える。
- ・保健師は、健康問題の解決に向けて住民や組織をつなぎ、自助、共助などの住民主体の行動を引き出し、地域に根付かせる。

◎予防的介入の重視

- ・保健師は、日頃の活動を通じて、健康課題やそれに付随する家族問題等が顕在化する前の段階からその可能性を予見し、予防的に関与する。
- ・保健師は、健康課題に気づいていない、あるいは支援の必要性を訴えることができない住民等に対し、義務や契約に基づかないアプローチを行う。

◎地区活動に立脚した地域特性に応じた活動の展開

- ・保健師は、家庭訪問や健康づくり活動等の地区活動を通じて地域に入り、住民やその生活の場に直接関わり、地域の実態を把握する。
- ・保健師は、個々の事例に共通する要因や潜在しているニーズを地域課題として捉え、その地域特性に応じた活動を展開する。

[出典：地域における保健師の保健活動に関する検討会報告書 平成25年3月]

保健師の保健活動の本質

1 地域を「みる」「つなぐ」「動かす」

(1) 地域をみる

○保健師は、個人の健康問題の共通点や地域特性等から地域の健康課題や関連施策を総合的に捉える。

保健師が地域で活動する上では、健康を切り口として、各種統計データに加え、地域に向いて住民などから直接収集した情報等に基づいて地域診断を行い、個人や家族を個別的に捉えるとともに、個別支援などを通じて把握した情報から共通点を見だし、住民ニーズに地域特性などを重ね合わせることで、個人の健康問題から集団に共通する地域の健康課題や関連施策を総合的に捉える視点を持つことが重要である。これは、個から集団へ、集団から地域へという視点を発展させる技術である。

(2) 地域をつなぐ・動かす

○保健師は、健康問題の解決に向けて住民や組織をつなぎ、自助、共助などの住民主体の行動を引き出し、地域に根付かせる。

保健師は、健康課題の解決に向けて、誰がどのような役割を発揮する必要があるかを的確に判断し、日頃の活動の中で収集した生活関連情報や地域のあらゆる資源を活用して、連携・協働すべき相手に対して、必要性や目的、相手に期待する役割、保健師が担う役割等を伝えることにより、住民や組織をつなぎ、相互の関わりが育まれるよう支援すべきである。

※⁴公衆衛生看護学：

公衆衛生学及び看護学に基礎を置き、地域住民の健康の保持増進を図ることを含め、時代とともに変化する地域社会とその健康問題を把握し、問題解決のために実践する保健・医療・福祉活動を指す。日本国憲法第25条では、「すべての国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。国はすべての生活面について社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない。」という国民の権利・義務及び国の義務が定められており、公衆衛生看護は、この公衆衛生を看護の立場から実践していくものである。

[出典：地域における保健師の保健活動に関する検討会報告書 平成25年3月]

※⁵ヘルスプロモーション：

人々が自らの健康とその決定要因をコントロールし、改善することができるようにするプロセスである。ヘルスプロモーションは、公衆衛生の中心的な機能を果たしており、感染症や非感染症そしてその他健康を脅かすものに取り組むことに貢献するものである。

具体的には、①健康的な施策づくり、②健康的な生活習慣や保健行動の実践を容易にするような環境づくり、③コミュニティ活動の強化、④個人技術の向上、⑤ヘルスサービスの考え方の転換により、自らの健康と健康を決定する身体的要素、ライフスタイル、行動様式などの要因をコントロール、改善するプロセスである。

[出典：市町村保健活動の再構築に関する検討会報告書 平成19年3月]

さらに、「場」や「機会」を通じて、各自の特性をいかした自助、共助の持続的なつながりなど住民自らの主体的な行動を引き出し、地域社会としての組織的な問題解決へと発展させていく役割も、保健師の活動において必要である。

地域のつながりにより、健康課題の解決に向け、必要な活動や事業の企画・立案・実施・評価の過程の中で、住民の中のキーパーソンに働きかけるなど、地域を動かして住民と協働で事業を展開し、その事業を地域に根付かせていくことが重要である。

2 予防的介入の重視

(1) 可能性の予見・予防的関与

○保健師は、日頃の活動を通じて、健康課題やそれに付随する家族問題等が顕在化する前の段階からその可能性を予見し、予防的に関与する。

保健師は、健康を切り口としたアプローチにより、住民に身近な専門職として、あらゆる年齢、健康レベル及び世帯構成等の人々に働きかけることが可能な存在である。

例えば、生活習慣病等の発症及び重症化、児童虐待、周囲からの孤立による孤独死及び過重な介護負担などが要因となった虐待や無理心中などのように深刻な事態となって顕在化する前の段階から、日頃の活動の中で重大な問題となる可能性を予見することが重要である。住民や家族が自ら健全な状態を維持し、危機的な局面を回避するための知識・技術・資源等の情報を提供し、関係機関と連携して早期に介入するなど、予防的に関与することが重要である。

(2) 潜在ケースの顕在化・求めがなくても必要なところに関わる

○保健師は、健康課題に気づいていない、あるいは支援の必要性を訴えることができない住民等に対し、義務や契約に基づかないアプローチを行う。

保健師が、特に、自らの健康課題に気づいていない住民や、自ら支援の必要性を訴えることができない住民などに対して、義務や契約に基づかずにアプローチできることは、保健師ならではの重要な機能である。より正確に住民の生活実態を把握し、住民との信頼関係を構築するため、地域へ出向き、家庭訪問等を積極的に行うなど、住民の潜在的ニーズを引き出すような働きかけが必要である。

他方で、たとえ疾病や障害を持っていても、住民がその人らしく自分の能力を発揮して生活できるよう環境を整えていくこと等についても、意識的に関わることが重要である。

3 地区活動に立脚した地域特性に応じた活動の展開

(1) 住民の「生活」「暮らし」「地域のつながり」と出会い、環境を捉える

○保健師は、家庭訪問や健康づくり活動等の地区活動を通じて地域に入り、住民やその生活の場に直接関わり、地域の実態を把握する。

保健師は、住民と住民を取り巻く生活の場だけでなく、地域社会そのものも対象としている。家庭訪問や健康づくり活動等を通じて地域に入り、住民やその生活の場に直接関わるこ

とができる地区活動を積極的に行うことにより、健康課題の背景にある生活の状況を把握し、課題の優先度を判断する。

個別課題を解決する中で、個々の事例に共通する要因や潜在しているニーズを地域課題として捉え、それらを解決するために地域の様々な機関や組織との協働体制を実現し、広げていく活動が求められる。

(2) 地域のつながりを強化し、住民が主体的に互いに支え合う社会をめざす

○保健師は、個々の事例に共通する要因や潜在しているニーズを地域課題として捉え、その地域特性に応じた活動を展開する。

地域の健康を支え、守るための社会環境の整備には、住民自らが主体的に健康づくりに取り組むことが必要であり、保健師は個別のサービスのみでなく、地域の課題や事業を評価し、保健福祉サービスの改善や次期計画立案にいかすことが重要である。

住民主体の健康なまちづくりを推進するとともに、地域のつながりを強化するために、ソーシャルキャピタルの核となる人材の育成に努め、ソーシャルキャピタルを醸成し、その積極的な活用を図ることが重要である。

さらに、保健サービスや健康施策等の普及・啓発と併せ、保健師の活動について積極的に情報発信し、住民の身近にいつでも相談ができる存在となるよう努めることも重要である。